

2023 年秋の大会における核データ部会企画セッションの提案につきまして

木村 敦（企画担当、JAEA）

2023/3/15

2023 年秋開催の部会企画セッションにつきましては、企画担当で協議を進めた結果、材料部会と共催で以下の内容で実施する方向で進めたいので、ご同意いただきたい。

提案内容

タイトル：「材料損傷評価のための核データおよび研究炉の現状と将来展望」

核データ部会で 40 分程度（2-3 講演）、材料部会で 40 分程度（2-3 講演）、
質疑討論で 10 分程度。合計 90 分。

核データ部会：損傷評価に用いられる弾き出し断面積や

核変換評価の核データの現状と将来展望、他。

材料部会：常陽の再稼動状況、もんじゅ跡地炉や JMTR 後継炉の状況、他。

参考：これまでの実績

2023 年 春の年会 「シグマ委員会設立 60 周年記念 核データ研究へのオールジャパン
での取り組み」

2022 年 秋の大会 「原子炉の廃止措置における放射化断面積データの現状と利用」

2022 年 春の年会 「JENDL-5 の完成と数値解析への適用の展望」 ※炉物理共催

2021 年 秋の年会 「シグマ」調査専門委員会 2019、2020 年度活動報告

2021 年 春の年会 「先端データサイエンスの核データへの適用」

2020 年 春⇒秋の大会 「核データ部会 20 年間の歩みとこれからの 20 年」

2019 年 春の年会 「核分裂生成物核種の核データ研究のフロンティア」

2018 年 秋の大会 「小型加速器中性子源と核データのニーズ」

2018 年 春の年会 「我が国における核データ計算コード開発の現状と将来ビジョン」

企画担当委員

木村 敦(JAEA)、執行 信寛（九州大学）、静岡 俊行（QST）、卞 哲浩（京都大学）、
北田 孝典（大阪大学）、明午 伸一郎（JAEA）、大津 秀暁（理研）、佐野 忠史（近畿大学）